月刊
えくてびあん
立川と語ろう　立川に生きよう
4
〈EKUTEBIAN-VOL.5, APRIL 1988-EKUTEBIAN〉
まい あーと・日本画「道成寺」
by 宮下壽紀

奥多摩の野生 テンを活写

東京にこんなにすばらしい野生動物がいた。テンである。減りつづけるこの動物を暖かく撮りつづけてきた、久田雅夫さん（栄町5丁目）。本誌にも何度か紹介したお馴染みのひとである。

奥多摩の山中に棲むテン。餌づけをし、テンに仲間であることを訴えつづけて7年。

そして今、目の前に2つの輝きをみせながら現われたテン。体中に緊張感がはしり、冷えきった指先がシャッターをきる。

この貴重な写真がこの程、銀座キヤノンサロンで4月18日より行なわれる。同時に、「貂のもり日記」（原生林・刊）が出版されることになった。

久田雅夫さん

幻の雷獣、雷音とともに天より降りてきたと伝えられてきた動物

山吹とテン。このころを境に山の奥深くに移動してしまう

すみれとテン。[illegible]毛から夏毛に[illegible]

闇に叫ぶ黄テン。なわばりにふみこむものを鋭く威嚇する

つがいのテン。大木の上を仲よく歩く。前がオス後がメスである

富士見町2丁目の佐山幸子さん

錦町5丁目の小峰もと二さん

日野市大坂上3丁目の篠機喜美子さん

柴崎町4丁目の細谷君江さん

柴崎町3丁目の新保雅子さん

富士見町4丁目の本多聡子さん

日野市神明2丁目の小西妙子さん

柴崎町4丁目の細谷君江さん

昭島市朝日町4丁目の中村香久さん

錦町5丁目の小峰もと二さん

リフォーム ベスト10

春もまじかなある日……。

立川市と立川リフォーム友の会の主催により「第7回リフォームファッションショー」が開かれた。64点もの作品が入れ替わり立ち替わり披露され、その中から実用的でおもしろいリフォームベスト10を次のように厳選。皆様もひとつこんなリフォームはいかがです。

快走・快汗、立川人

最近、ランナーたちに知られてきた立川マラソン。多摩地区をはじめ、13県からの出場者で賑わった。

砂川町の阿部壮二さん

出勤前の早朝マラソン「雨以外の日はお正月も走ります」とは、砂川7丁目の阿部壮二さん。きっかけは、仕事柄座っていることが多く足が弱くなるからとか。立川マラソンも一度も休まぬ皆勤賞。

高血圧症のリハビリで走り始めて11年。一分走るのも辛かったとか。「何でも好きになるまでやらなきゃだめだ」と雨にも雪にも毎日走り続けてきた。71才とはとても見えず。いやあ、お若い。

富士見町の谷本周一さん

西砂町の田村蝶子さん

ご主人の荷物を持っているより走ったほうが楽しそうと、第5回より出場。これがやみつきとなり機会があるごとに走り出した。ついには〝ニューカレドニア国際マラソン〟まで遠征という田村さん。

春暖うららか、3月13日㈰、総勢約2700名の出場により立川マラソン'88が始まった。9時20分スタートの3キロを皮切りに5キロ、ハーフと日ごろ鍛えた足を存分に披露された。

柴崎町の今井厚子さん

出場三回目。親しい人の病気をきっかけに「何でも興味を持ったら、その時にやろう」と決心。以来、マラソン、油絵、生花と精一杯燃えている。今日も風邪をおしての出場で見事〝完走〟。

立川駅長列伝

④ 中野　明

二一代駅長／高田　文夫

（昭和三十年十月－昭和三二年二月）

前回は現駅長の志水良平氏にご登場願ったが、今回より、二一代の高田駅長から歴史を追ってご紹介することにしたい。初代駅長の中島福太郎氏から志水良平氏まで、四十名の駅長が就任しているが、残念ながら、既に半数近くの方が亡くなられており、高田駅長は、今回ご登場いただく駅長のなかでは最も古い方である。そのお話しの中から、立川駅の歴史がチラリと、覗けるような気がする。

「当時はね、三二〇人もの職員を抱えていたんですよ。」と、高田氏は述懐する。

立川駅は、中央・青梅・南武線の貨車中継地点として、古くから貨物ヤードを有し、旅客輸送の営業関係の他に、貨車入換や機関車付換え等の構内作業に携わる多くの職員がいた。しかし、貨物輸送の著しい斜陽化と、合理化による人員整理、ヤード廃止等で年々減少の一途を辿り、昭和六十二年四月現在では、半数以下の一四八名を数えるに至っている。

昭和三十年当時は、米軍基地の滑走路整備に伴う砂利輸送で、貨物ヤードは一日中、てんてこまいだった。砂利を満載した貨車を、一日に三〇〇両も、引込線を使って「立飛」へ運んだ。

この引込線は、昭和一九年の三月に敷設されたもので、曙町三丁目の野沢踏切を過ぎた辺りから中央線と別れ、北へ向って大きく弧を描き、栄町を貫いて「立飛」へ至る約三キロの単線である。

途中、道幅の広い道路を横断する時は、道路の手前で一旦停車し、機関車に積んであるロープを道路に張って遮断機の代りにした。貨車の最後尾が踏切を通過すると、再び停車、ロープを撤収して発車するという光景が見られた。交通量のそれ程多くない、おだやかな時代であったればこその話しである。

ある時、砂利を満載した貨車が、引込線に入って間もなく、脱線した。この知らせを聞いた高田駅長は、手すきの職員を集め、手に手にスコップを持ち、入換用の機関車を駆って現場に急行、復旧に当った。全員汗だくになりながらも、ようやく復旧。「めでたし、めでたし」と、貨車を見送る職員たちの目前で、数メートルも行かないうちにまたもや脱線してしまったのである。これには、さすがに膝の力が抜けた。今となっては笑い話である。

当時の立川駅北口広場には街頭テレビが置かれ、いつも黒山の人だかりだったという。相撲中継や、〝力道山〟の空手チョップが白熱していた頃である。

漢字テスト㉗

空欄に一字挿入を試みよ。

■	五
行	風
方	■
正	雨

?立川クイズ●

ご存知、昭和記念公園。おしもおされもせぬ立川の名所であります。全面オープンはまだ先の事ですが、すっかり出来あがると、なんと日比谷公園の?倍の広さになるのですよ。さて、われらが記念公園、いったい日比谷公園のいくつ分になると思いますか。

㋑3　㋺7　㋩11

表紙は語る

浮世絵、歌川派末裔故伊東深水画伯の門下生中、師の衣鉢を継ぐ画家のひとりとして、現代にその健筆を揮う美人画の第一人者宮下壽紀氏は語る。

「小さいころよく〝めんこ〟や〝羽根突き〟をしましてね、その中に描いてある浮世絵風の昔ながらの絵に魅せられ、よくまねをして描いていたものです。その頃の思いいれが今こうして実っているのかも知れませんね」と、昔を思い出しながら語ってくれた。日本画を描きつづけてこられたあいだには、新聞、本、雑誌などの挿絵も多く描かれておられた。

また、「動く美術館」運営委員でもあり広く地方地域の文化向上にも努めておられる宮下氏である。

真如苑だより

諏訪の森公園の桜が今年も見事に咲きました。花吹雪の中で子供たちが無心に遊んでいます。見守るお母さんたちの顔も晴れやかです。

心ときめく季節、どうぞお気軽にお出かけ下さい。

■日時　4月16日㈯　午後2時－4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

工房から

●街が何か明るく感じたので、まわりを見渡してみると、キラキラとひかったスーツや制服を着た新入社員や新入学生が、街のあちらこちらにあふれていました。わが街にも早々とこんな季節がまいりました。●春らしく、新しい装いを楽しむリフォームファッションが行われた。代表小峰さん曰く「〝押入れに宝あり〟〝古いものをちょっと手を入れればステキな装いができますよ」とのことである。●年令や男女を問わない、だれでも出来るスポーツといえばやはり〝マラソン〟でしょう。初める切っ掛けはさまざまだが、ランナーが口裏を合わせたように言うことは〝楽しいヨ〟である。走ってみなきゃ味わえぬもののようです。●行手五尺また五尺飛び　えくてびあん。

（編集）石塚敦美　佐藤昭子　小川知子　神山清子　隅川環　田中恵子　平沢正弘　原田悦子
（写真）天野武美　板橋一明　吉田義治　スタジオ269

月刊えくてびあん　第45号
昭和六十三年四月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2－4－11 ファインビルディング　3F
電話　〇四二五（26）〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所